

の方法や整理の仕方、収書の仕方など初めて知った事ばかりでした。特に私はたくさんの本の中から借りたい本を探すことにおどろきました。五十七万冊もある本の中からどうやって探すのだろうと最初は不思議に思いましたが、探し方を教えていただき本のラベルの番号順に並んでいる事を知り、とてもいい方法だと思いました。私が今度図書室で本を探す時にラベルの番号を見てこの体験を役立てたいと思いました。

三日目と四日目の「ムーミンの世界」という展示会も特に印象に残りました。大学生の方に展示会を見てもらえるように声をかけたり、本の説明をする時に私は緊張してしまい大きな声あまり出せませんでした。職員の方がいろいろサポートしてくださりだんだんくわしく説明できるようになりました。緊張しましたが、自分たちの展示会は初めてだったのでとても楽しかったです。

いろいろな事をこの四日間の間に学ばせていただきありがとうございました。今回のチャレンジ体験で経験させていただいた事を将来に生かしたいです。

(M. T.)



「チャレンジ体験を終えての感想」

私がチャレンジ体験でなぜ京都外国語大学付属図書館を希望したのかというと、私は英語が大好きなので何か英語とふれあうことがないかと思ったからです。それで思った通り、英語の新聞や本がたくさんあって、とても興味を持ちました。

初日に図書館の中を案内していただき、この図書館はこんなに大きいんだと知りました。私は、絶対この図書館に一人で「洋書の399.56を探してきて。」と言われても迷子になって何時間もかかるかと思いました。ここのアルバイトの大学生の方々が色々教えて下さってとても感謝しています。ここの職員の方々は本当にやさしい人たちばかりでとても好きになりました。

三日目と四日目で体験した「ムーミンの世界」の展示会では、最初は緊張して、図書館に入って来た大学生に声をかけられませんでした。ムーミンの本の説明や作者のことなどをちょっと怖そうな大学生には言えなかったりとても積極的にはできませんでした。でも、

ちょっとしたらだんだん慣れてきて、色々な大学生に声をかけられるようになってきて、ムーミンの説明もハキハキできるようになってきました。私はムーミンのことはあまりよく知らなかったのですが、展示会をやっているうちにだんだんムーミンのことが大好きになりました。

この四日間、色々なことを学ばせていただきました。本のハンコ押しやラベル張りや本の貸し出しなど色々な体験をさせていただき、本当に有難うございました。

(K. T.)



「チャレンジ体験を終えて」

京都外国語大学付属図書館でチャレンジ体験をさせていただきとても良かったと思います。そして、職場の方々にはやさしくしていただいて感謝しています。私は、図書館という仕事はカウンターでの貸出、返却だけだと思っていました。しかし、チャレンジ体験を通して、他にもたくさん大切で大変な仕事があることが分かりました。そして、その中でも収書からして、発注と受け入れ、整理、閲覧、保存の4つの仕事があることも知りました。どれも大変な作業でいつも使っている図書館でもたくさん人の苦勞がつまっているのだなと思いました。また、作業だけでなく図書館の中の様子や仕組みについても教えていただきました。これから図書館を使うときは、図書館を支えてくれている人達に感謝をして使おうと思います。そのために何をしていくかという、本のラベルとあうように本棚に入れたり本の持ち方などを考えて本を大切にします。そして、そのことが広まるように友達や家族に伝えていきたいです。3日目と4日目は「ムーミンの世界」の展示をさせていただきました。大学生に声をかけて、来てもらうことがとても勇気のいることだったけれど、来てもらえたときはすごくうれしかったです。説明も勇気を出せば、「なるほど」と聞いて下さり心が温かくなりました。展示を見に来て下さった方々、職場の方々、本当に有難うございました。この4日間のごことは一生忘れません。これからもお仕事頑張ってください。

(M. Y.)